

平成 28 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	脳構築における発生時計と場の連携
領域代表者	影山 龍一郎（京都大学・ウイルス研究所・教授）
研究期間	平成 28 年度～平成 32 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、自律的なタイミングと順番で進行する発生過程がどのような計時分子機構と細胞外環境（場）で制御されているのかを、解析方法と情報が最も蓄積している脳を対象として研究することを目的とした提案である。学問領域としての新規性は高く、国際的優位性も良好であり、これまでの研究に数理モデル構築やシミュレーションを取り入れて発展させる試みは高く評価される。発生の時間制御機構の理解は、臓器形成の分子機構や進化による種差の理解を深め、発生時間生物学という新たな学術領域の創成につながることを期待される。</p> <p>研究体制は、転写機構による細胞内在的な時間制御機構解明（A01）、細胞の場の連携による時間制御機構（A02）、実験技術開発（A03）の 3 つの研究項目で構成され、それぞれの研究領域を牽引してきた実績のある研究者が研究領域内でバランス良く連携している。</p> <p>領域代表者のマネジメント実績やビジョンが明確に説明されており、計画研究が有機的な体系となるように設定されている。総括班や国際活動支援班において若手研究者育成の支援活動が設定されており、評価できる。</p> <p>一方で、本研究領域は「脳」に焦点を当てて発生時計と場について取り上げているが、同様のシステムは他の臓器についても存在していると考えられることから、より広がりを持った取組が期待される。</p>